
俺 = おいしい

こをり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺〃おいしい

【Nコード】

N6817N

【作者名】

こをり

【あらすじ】

俺はおいしい

他のものなど塩や砂糖くらいの脇役のお

今日の馳走はあまりに不味かったので最後に目玉を喰らうてしまっ
たわ！

(前書き)

この物語はカニバリズム(人喰い)の描写を描きました
しかも文章は支離滅裂です

「君が手にした勝利はきつと最悪な結果をもたらすだろう」

俺は今から飯を食べる所だったのになんとも不愉快な言葉を言われてしまった

その男は美しい顔立ちをしているけれども冷たいその瞳は例えがたい

「俺は勝利など手にしていない」

「嘘だね、ならどうして君は血まみれなんだい？」

「血？なんだそれは」

そんなもの付いてないだろう？そう聞けば男は眉をひそめたため息をついた

まあ仕方がないか。こいつとはきつと目が悪いのだ

俺はようやく食事を再開した

「人の話を聞け」

「人？貴様は人では無かろうに」

「それはお前の方だ」

「ははっ面白いことを申すなあ」

俺が人じゃない？ならいったいなんだと言うのだ

こうやって食事もとっているし欲も睡眠もあるのだから

男は口を押さえて吐き出した

「おいおい床を汚してくれるなよ」

「だまれ」

「ふーまずは飯を食え、だから貴様は線が細く吐いてしまうのだ」
「やめろ」

なんだ！人の善良をむげにしよって！もう貴様には何もやらんからな！

そう叫ぶと男は走ってどこかに行ってしまった

「ああなんと馬鹿な奴じゃ」

せつかくの肉が冷めるであろう

しかしこの肉はまずい！やはり・・・

「この姫君の方がうまかったかのう？」

何ゆえ未完成のややの肉など食べなければいけないのだ
まったく惜しい事をした・・・ついつい遊びのどが過ぎたのだ
女の腹を裂くと小さな肉が入っていたから食べてみたがぶよぶよし
ておる

炙って見たがどうも油ばかりが流れ落ちる

「ああ早くここから出ぬと焼け死んでしまっわ」

城だったものが、姫だったものが、ややだったものが
臭いがもうしばらく我慢じゃのう・・・
姫を蹴飛ばしてみれば腹から美味そうなものが出る

「少しくらいならばれんじやるうに」

味を濃くするために俺の目玉を抉り取る

ああ、しもつたなあ

「前も取ってしまったからもう見えんわ」

まあよい！これで今日の飯は少し豪勢になったのだから！

ついでに片耳をそぎ腸にグルグル巻きに巻きつけ食べやすくする
南蛮ではたしか・・・さんどいち？と言っのだったかな？

それでは！

「いただきます！」

ああやはり俺はおいしいなあ

(後書き)

人喰い物語りは個人的に好きです
今自分が書いた物語は嫌いですが

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6817n/>

俺 = おいしい

2010年10月9日15時02分発行